学校番号	105

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「書Ⅰ」　（光村図書）						
副教材等	応用ペン習字						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させ、親しみやすい教材を通して様々な書体を体験することで、自分らしい文字を書くことができるようになることを目指しましょう。
・身近に飾れる作品を制作することで、書表現の楽しさを実感し、また達成感を味わいましょう。
・授業の進め方は、毎授業での目標を明確にし、鑑賞を通して制作の意図や技術を学習します。評価方法については、各単元・毎授業での取り組み方を観察し、作品やプリント課題にて完成までの課程や理解度などを評価します。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
書道の基礎的な知識・技能を身につけた上で自己表現に活かす。
【思考力、判断力、表現力等】
書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】
書道の幅広い活動を通して、自ら学ぶ力を育成するとともに、書を愛好する心情を育て感性を豊かにする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけ表している。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞創造的活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	書写と書道	4 月 ・国語科書写と芸術科書道について ・文房四宝について	a:基本的な姿勢や執筆法を身につけ表現している。 b:用具・用材の用い方を工夫している。 c:基本的な姿勢や執筆法についての知識に関心をもち、今後の学習に意欲的に取り組もうとしている。	制作レポート提出作品	制作レポート提出作品	参加状況 制作レポート 提出作品
	漢字の書楷書	5 月・6 月 ・「九成宮醴泉銘」 ・「孔子廟堂碑」 ・「牛橛造像記」	a:楷書の字形や用筆などの特徴を理解し、書風を生かした表現をすることができる。 b:楷書の基本的な用筆方法を理解し、表現を工夫している。 c:楷書の美とその表現技法について関心をもち、意欲的に取り組んでいる。			
	筆の機能を知る	7 月① ・筆の弾力を使った運筆練習 ・行書から筆の機能を学ぶ	a:筆の弾力を利用する用筆方法を身につけ表している。 b:筆圧の違いや呼吸の長さによる表現の違いを理解し、意図的に工夫している。 c:筆の弾力について関心をもち、積極的に表現方法を学ぼうとしている。			
	漢字の書行書	7 月② ・古典から学ぶ「蘭亭」	a:古典に基づく学習の意義と臨書に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b:行書の美に対する感性を働かせて、自らの意図に基づいて表現を構想し、工夫している。			

二学期	篆刻	8 月・9 月・10 月 ・書体の変遷 ・名前の印 2 本(7 分、3 分) 11 月 ・古典を生かした表現 ・構成による表現方法 ・作品制	c:古典に基づく学習の意義と臨書に関心を持っている。 a:篆書の用筆を身につけ、篆刻の手順を理解して名印を刻すことができる。 b:篆刻における分間布白を理解し、表現を工夫している。 c:書体の変遷に興味をもち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 a:古典の特徴や書風を表現に取り入れ、意図にあった構想をして書くことができている。 b:古典の書風に学び、表現することを工夫している。 c:書の創作に関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	制作レポート 提出作品	制作レポート 提出作	参加状況 制作レポート 提出作
三学期		12 月・1 月・2 月 ・仮名の成立と変遷 ・基本用筆・運筆の学習 ・いろは歌 ・変体仮名 ・ちらし書	a:仮名の基本用筆を理解し、その運筆の技法を身につけている。 B:仮名の基本用筆を理解し、表現を工夫している。 c:仮名の成立に関心をもち、仮名の基本用筆や運筆を意欲的に学ぼうとしている。	制作レポート 提出作品	制作レポート 提出作品	参加状況 制作レポート 提出作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度